

間違いなく「どこの？」と聞かれる まだ正規代理店のない時計



URWERK

オーパス5でも用いられた 独自の時刻表示

ハリー・ウィンストンのオーパス5を覚えているだろうか。あの時計を作ったのがウルヴェルクのフェリックス・バウムガートナー氏だ。時刻の表示法は指針式とデジタル式が主流だが、それ以外の方法を多くのブランドが考え出し、製品化している。伝統的な輪列のムーブメントがほとんど完成の域に達してしまい、ブランドごとの性能が大差ないなら、斬新な表示法のほうが重要といっても差し支えないだろう。これは、今後の進化の方向を求めている表示法なのだ。精度に関係ないのに、わざわざ複雑な機構を用いた時計をどう評価するかは、個人の自由。ただ、こういうメカを否定してしまうようでは、小型精密機械である時計の面白さはわからない。実際にこの時計を使ってみると、表示法の優秀さがわかるという。



マーティン・フレイ氏(写真)のデザイン画を見て、パートナーのフェリックス・バウムガートナー氏は「まるで蜘蛛みたい」といったそうだ。

www.urwerk.com



オーパス5はサテライトの形状が立方体だったが、これはコーン形。立方体の4面を使っていたオーパス5に対しこの時計のコーンは3分割して数字を表わしているの、アームが3本から4本になっている。角のある立方体がごろんと回転する様は見ている面白。しかし、コーンの様は洗練された感があるといえるだろう。写真の時計は新作のタランチュラ。以前のモデルはサテライトの一部をケースで隠していたが、すべて露出して見えるようになった。ケースサイズは50×36mm。手巻き。SS。CHF65,000

裏側には精度用のアジャスターがある。分針と秒針は、そのためのものだろう。パワーリザーブは43時間だ。



この時計が示している時刻は3時41分。表示部分は底辺部だけだ。